

一般質問発言通告要旨

通告者 2番 武藤義彦

1 子供たちの安全をどう守るか

大津市で起きた散歩中の保育園児の死傷事故、川崎市のスクールバス停での殺傷事件等、園児・児童が巻き込まれる事故・事件が相次いでいる。

- (1) 市内の保育園児の散歩や、放課後児童クラブのグラウンド等への移動形態はどのようになっているか。
- (2) スクールバス停での乗降状況はどうか。
- (3) 今後、関係機関より指導・通達があると思うが、現段階で独自の対応策は検討しているか。
- (4) 園児の事故は保育士の努力や注意だけでは防ぎようもなく、学校現場でも登下校を含めた全てを見守ることは極めて困難である。保護者・行政・警察等の連携以外にも地域を巻き込んだ取り組みが必要ではないか。

2 新角館庁舎の入札不調について

- (1) 建設資材の納入価格は取引業者によって違いがあるが、設計上での見積価格に問題点はないか。
- (2) 県内で確保できない建設資材は何かあるのか。
- (3) 県内で同等の代替資材確保は可能か。
- (4) 電子入札は、応札しない場合に理由確認できない不便さもあるが、入札不調の情報収集、聞き取りはどの程度実施したのか。
- (5) 三度目の入札は「建物の意匠見直しや仕様変更により単価を圧縮する」としているが予定価格の変動はあるのか。
- (6) 入札参加資格は県内から拡大するのか。

3 耕作放棄地について

- (1) 中山間地域の耕作放棄地が増えているように感じるが、近年の推移はどうか。
- (2) 現地見回り・指導等によっても解消されない理由は何か。
- (3) 多面的機能支払交付金は耕作放棄地が該当外であるが、環境保全として耕作放棄地の草刈りなどを実施した集落には、市単独の助成も考えるべきではないか。

4 スマートシティ先行モデル選出について

- (1) 今後のスケジュールと具体的な取り組み内容は。
- (2) 実証調査予算は継続して支援されるのか。

一般質問発言通告要旨

通告者 3番 高橋輝彦

1 令和元年度の気になる工事の状況について

令和という新しい時代を迎えて、仙北市民は少しでも暮らしが豊かになることや、幸福であることを実感できる仙北市を期待しています。ずっと住み続けたいと思える魅力ある仙北市にしていくための、令和元年度の気になる工事について質問します。

(1) 新角館庁舎建設工事の3度目の入札に向けた取り組みについて

新角館庁舎の建設工事については、2度も入札が中止となったことで仙北市民は大変心配しています。現在の角館庁舎の危険度は増していくし、新角館庁舎は本当に田町山に建設できるのか、との不安の声が数多く聞こえてきます。全員協議会で市長が、「3度目の入札に向けて、万全の準備をする。」との決意を表明しましたが、万全の準備は整ったのかを伺います。

①総事業費の枠は変更しないとのことでしたが、どのような見直しをして3度目の入札を行うのか伺います。また、入札の参加資格は2回目と同様にするのか伺います。

②公用車車庫建設工事と地中熱利用設備工事の入札準備は順調に進んでいるのか伺います。

③供用開始見込みは、全員協議会で3ヶ月程度遅れるとした令和2年12月初旬頃から更に遅れることになるのか伺います。

④5月23日に、2件の水道工事の入札も取り止めになったようですが、今後の工事入札における予定価格についてのチェック体制について伺います。

(2) 中川小学校グラウンド及び雲然野球場の整備等について

旧角館東小学校野球場を㈱セレクトラの事業所建設用地にすることから、関連する工事等について伺います。

①代替野球場にする中川小学校グラウンド及び雲然野球場の整備内容について伺います。

②旧角館東小学校野球場のバックネットやダッグアウト、フェンスなどの撤去費は発生しないのかを伺います。

③仙北市は、㈱セレクトラと旧角館東小学校野球場の約3,000㎡を事業所建設用地として賃貸借契約を締結したとのことですが、残りの約7,000㎡の土地は今後どのように活用する予定なのか伺います。

(3) 小・中学校の冷房設備設置工事について

昨年12月定例会で、仙北市内の小・中学校への冷房設備の設置が決定し、現在、急ピッチで進められている冷房設備設置工事について伺います。

①冷房設備の設置を予定した小・中学校11校、213教室全てが工事契約され、着工されているのか伺います。

②工期はいつまでの契約としたのか、また、設置が完了した教室から順次、使用できないものか伺います。

2 令和元年度の新規事業等について

令和元年度の新規事業や新規の取り組みについて質問します。

(1) 幼保の給食の副食（おかず）費の助成事業について

消費税増税分を財源に10月から始まる予定の幼児教育・保育の無償化に続き、秋田県が10月から始めるとしている、幼稚園や保育所に通う3～5歳児の給食の副食（おかず）費の助成事業は、世帯の年収に応じて半額か4分の1を県が助成するとしており、残り2分の1は市町村が予算化するとのことですが、仙北市では、この給食の副食（おかず）費の助成事業は、どのような取り扱いになるのか伺います。

(2) 仙北市・JR秋田支社・DMO候補法人による「観光まちづくり」の連携協定について

市政報告にありました、3者による「観光まちづくり」に関する連携協定の締結により、角館の滞在型観光の拡大も推進していくとのこと、大変に期待しているところであります。特に、事業の目玉としている古民家などの既存施設を改修して宿泊施設を整備することについて伺います。

①第1候補として、西宮家の敷地内で宿泊施設を整備して、今年度内にも営業を始めたいとのことですが、仙北市で把握している、この宿泊施設の概要について伺います。

②首都圏や海外の富裕層やシニア層を対象とした少人数向けの高級路線とし、一軒家を借り切って泊まるタイプで、市内数カ所で検討しているようですが、内町での空家を改修した「サムライハウス」風の宿泊施設も期待するところですが、伝建群保存地区内に宿泊施設を整備することに支障はないものか、また、内町で宿泊施設を整備することについての市長の所見を伺います。

(3) 地方創生・近未来技術実証特区系の取り組みについて

仙北市は、平成27年8月に国家戦略特区に指定されました。昨年6月には、「SDGs 未来都市」に選定されました。今年2月には、内閣府との「仙北市特区推進共同事務局」が開設されました。そして、5月31日付で、国土交通省が募集していた、国のスマートシティ実証調査予算を活用できるという、「スマートシティ先行モデルプロジェクト」に選定されました。市民にとって、これらの取り組みは、何らかの関わりがある市民以外には、何をやっているのか殆ど解っていないと思います。この、地方創生・近未来技術実証特区系の取り組みについては、市民の理解を得て取り組んでいくことが大事だと思います。そのためには、今、仙北市では、どこの課室がどんな事に取り組んでいて、その効果はいつ頃どんな形で表れてくるのか、つまりは、これをやることによって、将来的に「まちはよくなる！」ことを、リーフレットなどで（できればマンガ的に）解りやすく説明することが必要ではないかと考えますが、市長の所見を伺います。

一般質問発言通告要旨

通告者 4番 小木田 隆

1 仙北市の財政対策に関することについて

- (1) 今、現状での財政に関して、非常に厳しい状況にあるが、どれだけ本気で改善する考えがあるのか疑問を感じています。

3月定例会において、私の一般質問の時に、事業の見直しについて、全てを対象に、議会と相談しながら見直しをする、と答弁いただいた、と思っていました。

しかし、今回の新角館庁舎の件に関しては、先般の全員協議会で、議員の方から、急がないで良いから、建築工事を安く見直したほうが良くないか、という意見がありながら、その意見が反映されていないようです。

現状の仙北市の財政は、危機的状況にあり、この事業を身の丈に合った庁舎にすることが、必要だと思います。実際、八郎潟町では、本庁舎の建築でありながら、11億円ぐらいの建設費であるのに、なぜ分庁舎である角館庁舎に20億円以上をかけるのでしょうか。

本当に財政状況を考えているのでしょうか。

一般家庭でも、身の丈に合った家を建築するのに、公共事業では合併特例債という有利な財源があるから、現状でお金が無くても立派な建物を建設できることは可能ですが、いかに有利な合併特例債と言いながら、結局は借金であり、これからの若い市民に負担をかけることになり、できるだけ負担をかけないようにしよう、という考えにはならないのでしょうか。

- (2) 今回の庁舎建設の設計業務委託の契約について

プロポーザル方式によるものと思いますが、なぜ、角館病院建設で2回も入札不調を招いた設計屋を選んだのですか。

普通であれば、今回は遠慮してもらいたいと思いますが。

さらに、設計額を決めるにあたり、財政状況を考えて決めたのですか。

一般質問発言通告要旨

通告者 6番 熊谷 一夫

1 観光資源としての田沢湖畔の整備を

田口寿宜議員から当局へお願いしている、田沢湖の観光遊覧船乗り場に車いすや障がい者用のスロープ設置の件です。先月も、愛媛県から身障者のグループ（20数名）が観光に来ました。（休暇村宿泊）半分以上が車椅子です。観光遊覧船乗り場の階段も急な上に車いす用のスロープもない状況です。羽後交通でも「1～2台であれば従業員で対応できるがとても無理です。」とのことです。人にやさしいまちづくりは、観光客にも優しくしてこそと思う次第です。その後の進捗状況を伺います。

昨年1月、台湾の澄清湖を訪問した時には、辰子飛翔の像周辺に生け垣や噴水があり、道路清掃も行き届いており、爽快な気持ちになって帰国したことを覚えております。一方、田沢湖畔の“飲水思源像”の周りには、花もなく、雑草だらけで、下の方には、錆びた廃ボートなどもあり、台湾の方達に恥ずかしいなと感ぜずにはおられません。

田沢湖の「飲水思源像」の清掃、周辺の環境整備、廃ボート等の管理はどうなっているのか伺います。

クニマス未来館周辺の整備事業が行われる計画だが、白浜周辺は、錆びれていくばかりになっています。道路から田沢湖畔白浜へ降りる階段もなく、歩道・横断歩道もありません。20数年田沢湖畔に観光客は来るが、周りはきちんと整備されていません。廃業したホテル、歩道の整備等計画等立案の上、田沢湖畔の活性化策を講じてほしいがどうでしょうか。

2 稼ぐ！地方創生であれ

元地方創生担当大臣の山本幸三氏は、地方創生とは「地方の平均所得を上げること」と定義して「“稼ぎ”につながることを意識し、地方の仕事をつくり、魅力を高めることが“稼ぎ”につながらなければ意味がない。なぜなら、“稼ぎ”がなければ、その地域の持続的な発展が約束されないからだ。“稼げる地域”には、人も、モノも、カネも集まってくる。」と全国の成功例をひかれて書いています。

本市は、全県で唯一2015年に地方創生特区指定を受けている市です。しかし、いろいろな実証実験やイベント事業等をおこなってきたが、実用化されたり、企業化され“稼ぐ地方創生”となっていないと市民も感じています。これまでの地方創生事業を検証する意味で、伺います。

- (1) 全国初の自動車無人運転自動走行実験を田沢湖畔で行い反響を呼んだおり、「田沢湖一周無人バスを走らせます」とした構想はどこまで進んだのでしょうか。
- (2) 西明寺中でのドローンを使った図書輸送実験では、「学校間を結ぶ本の輸送」「過疎地へのドローンを使った配達」等の夢は、無くなったのでしょうか。
- (3) ドローンインパクトチャレンジカップはその後行われぬのですか。

- (4) 外国人医師等が行う臨床修練制度のその後（玉川温泉に温泉診療所と医師）は、どうなるのですか。
- (5) 耕作放棄地等の生産農地への再生の具体例はどのようなのですか。
- (6) 国有林野の貸付面積の拡大の具体的活用例はどうなっているのですか。

以上について伺います。

宮崎県新富町では、「稼げる地方・自立した地域づくり」を目的に観光協会を解散し、地域商社こゆ財団を設立。「世界一チャレンジしやすい町」をビジョンにかかげ東京、大阪、福岡などから人材育成塾に参加、関係人口移住希望者が増えている町。ここから、“一粒1,000円のライチの奇跡”を開発。稼いだお金を人材育成に投資し、人口17,000人の町から農業ビジネスで上場企業創出へ。～2019全国自治創造学会事例発表～

3 森林環境譲与税で森林整備や人材確保を

令和6年度より森林環境税及びそれを財源とする森林環境譲与税が導入され、課税に先行して今年度より「新たな森林管理システム」が開始されます。

地球温暖化防止や土砂災害防止、森林環境整備、担い手の人材育成確保のために林業・木材産業の方には長年待望されたものです。

今年度は約200億円の国の予算とのことですが、本市の今年度予算（補正予算に計上されている）、この税の使途、譲与基準・森林管理システムとその効果、今後の課題について伺います。

4 2040年問題を見据えて

2040年には、本市の総人口が2018年4月1日現在26,770人から10,027人減り、16,743人と推計されています。団塊ジュニア世代が65歳以上になり、高齢者人口は、7,828人に達し高齢化率46.8%となります。人口構造の変化は社会に大きな影響を与えるとともに、産業を支える労働者不足が深刻です。こうした40年問題を見据えて以下の点を伺います。

- (1) 働き手不足に対する対応（医療・介護のみでなく産業就業者不足に対する全体の働き手改革）について
- (2) 社会保障の支え手の確保について（全国では高齢者1人を2.2人→1.5人になる。社会保障の持続可能性と財政基盤の強化が必要となる。）
- (3) 健康寿命の延伸や認知症施策の強化をどうするのですか。
- (4) 先端技術（人工知能（AI）情報通信技術（ICT）等の先端技術の実用化）の活用について

一般質問発言通告要旨

通告者 7番 平岡裕子

1 医療機関関係の手数料について

- (1) 普通診断書中、簡単なもの・複雑なものと区分されているが具体的にどのように違うのか。
- (2) その他の文書料の内容について伺う。
- (3) 近年の文書料収入はいくらか。
- (4) 県南の自治体病院と比較した場合、仙北市は高額に思うが見直しを含めた所見を伺う。

2 子どもを産み育てやすい環境づくりについて

- (1) 仙北市イクボス共同宣言は生かされているか。
昨年度の出生者数は市内全体で88人、今年度は、70人台ともいわれている。「職場全体で仕事と家庭の両立を支援する気運を高めることで、市民一人ひとりの健やかな暮らしの実現に向け全力で取り組む」と宣言されている。子育てや介護支援だけではなく、婚活、妊活も視野に入れて取り組むべきと思うが、事業所で実績はあるのか。
- (2) 母子保健対策費として、不妊治療を受けている夫婦に対し治療の一部助成をしているが、現状はいかがか。
- (3) 10月から実施される幼稚園、保育園、認定こども園の保育料の無償化は、保護者の負担軽減につながるか。教材費、行事費、おやつ代など負担が増えるのではないか。

3 市民の命と暮らしを守るために

- (1) 早期に利便性のある地域公共交通対策を
高齢者の車の事故が報道されるたび、運転免許を返納した後の暮らしが心配という高齢の方が増えている。定時に走行する巡回バス等の希望がある。対処はいかに。
モビリティサービス推進事業として、白岩デマンドタクシーと角館・抱返り観光周遊バスの選定理由と他の公共交通とつなげていくのか。
- (2) 水道を待ち望んでいる地域に早めの対応を。
- (3) 使用頻度の高い集会場（会館）に、エアコンの設置を望む声に応えるための考えはないか。

一般質問発言通告要旨

通告者 9番 阿部 則比古

- 1 これまでの想定を超える市民人口の減少や高齢化によって、今後、交付金の減少や自主財源の減少が大きく危惧される中、現在の事業や今後の事業、インフラの維持、社会保障費の増大等、市を取り巻くありとあらゆるファクターが財政の破綻を強く示唆している。

これまでの財政運営のありかたで果たして良かったのか。

これまでしっかりした財政に対する長中期ビジョンに立脚した運営であったのか。

反省点は無かったのか。

今後の展望も含めて伺う。

- 2 病院の経営が厳しい中、市民人口の減少によって、今後、患者数が更に漸減し続ける。大変な経常的赤字の更なる悪化によって、市の財政破綻の筆頭格になると思われるが、病院のあり方や規模や経営方針が果たしてこれで良かったのか。

今後の方向性と打開できる展望はあるのか伺う。

一般質問発言通告要旨

通告者 15番 八柳 良太郎

1 さくらについて

今年のさくらは23日頃に咲き始め会期終盤の5月2日頃まで咲いていたし、雨の日も少なかったので長く観光客の眼を楽しませてくれた。又横町橋の土手のライトアップや武家屋敷全体のライトアップは評判が良かったと聞いた。

経済効果も昨年よりはあったと思う。

祭りの経済効果が高まるように施策検討願いたい為次の点につき質問する。

- (1) 今年10年ぶりに古城山のさくらが半分ほど咲いたが何か施策を講じたのか。
- (2) ライブカメラが昨年より見にくいとの評判だったがその理由はなにか。
- (3) 年間通して武家屋敷に人が来る。くるというより来てもらいたいと宣伝している。
昨年、質問で伝承館前のポケットパークの女子トイレ10台中洋式は2台ほどで和式を使う人はいない。従って渋滞行列になっていることを指摘した。その時の答弁は秋にとりかかるとのことだったと思うが、行楽シーズンまえに改修できないか。
- (4) 紅葉シーズン前に葉が落ちないように葉をまいてもらいたい、出来ないか。
- (5) 観光協会が先になって遅咲きのさくら、紅八重ざくらが植えられた。
ソメイヨシノが散った後も観光客を楽しませてくれているものもあるようである。
伝承館入口横のさくらもそうであり、ありがたい話である。
遅咲きのさくら候補が紅八重桜、ヤマザクラや観山等のようなものであるが、赤色のオオシマザクラは候補として検討出来ないか。色はヤマザクラと同じピンク、咲く時期は毎年ソメイヨシノが散り終わってから、花卉の数は5弁から6弁である。ソメイヨシノのお父さんでありテングス病にかからない。研究する気はないか。
- (6) 以前なかったにおいが武家屋敷近辺、横町、七日町、時には中央通りまで進出してきている。桜美町はかなりひどいにおいに悩まされているという話である。私たちが訪れる観光地にはそんなところはなかった。どこまでにおいが広がってるか調査してるのか。原因は特定されたのか。対策はあるのか。

2 庁舎建設について

新角館庁舎については入札予定額16億3千万円で参加要件は仙北郡内として今年度2月4日の入札日だったが、4JVが入札辞退、改めて3月7日、消費税や最近の労務単価の見直しを含めて、4,030万円程増額して入札を行ったが、参加申請のあった2JVが辞退した。

4月26日の全員協議会や総務委員会で論議されたが次回入札は危ぶまれている。

そこでお尋ねする。

市長の市政報告によれば「再度設計内容について慎重に検討作業を行っているところ」との報告があった。慎重な検討作業とは何のことか。

- (1) 設計図書の変更か、資材の購入単価の見直しか、全体の事業費の見直しか、スケジュールの見直しか。
- (2) 今の設計ではグレードが高すぎて予定価格より2億円の違いがあるとのうわさがある。機能を落とさず仕様変更することで対応のようだが、どんなものの仕様変更をしようとするのか。
- (3) 市長報告では「6月中旬までには精査が終わる」との報告があるが、設計図書の広告や入札日等の日程はどうなるのか。

一般質問発言通告要旨

通告者 5番 高橋 豪

良好な観光地形成と、JR 秋田支社、観光協会との連携によるまちづくりについて

この程仙北市では、JR 秋田支社及び田沢湖・角館観光協会との連携協定を締結し、観光のまちづくりを促進するとしている。このような連携により、より一層充実した観光施策を期待するものであるが、国内外からの観光客の方々に喜ばれ、また、地域活性化に資する良好な観光地を形成していくことと併せ、連携協定の具体的内容について次の点を伺う。

- 1 連携協定は、遊休農地を活用した都市住民の移住推進や6次産業化の検討推進、首都圏での観光キャラバンなど、既に行われている事業も含め多岐にわたるが、それらの具体的内容を伺う。
また、その中で、「滞在型観光施設の検討と推進」という分野については、報道等によると、角館地域の古民家など、既存施設を改修して宿泊施設を整備するとし、早ければ19年度内にも営業を始めたいとのことであった。市政報告では西宮家を第一候補に検討中である旨も述べられているが、このことについて、これまでの経緯と、具体的内容について伺う。
- 2 宿泊施設整備事業の大きな狙いとしては、地域全体を一つの宿に見立て、空き家や古民家、歴史的建造物群などをリノベーションして宿泊施設とし、食事や買い物などは、地元の店を利用してもらおうという、「分散型宿泊施設」を形成していくことにあると見受けるが、市が描いているイメージについて伺う。
- 3 先進事例としては、兵庫県「丹波篠山市」や、滋賀県「大津市」の事例が挙げられる。うち、大津市では「大津宿場町構想」を策定し、調査事業の実施や計画、将来ビジョンなどを具体的に定めて実行しており、既に民間事業者が、昨年6月から宿泊施設を開業している。この宿泊施設は、「商店街ホテル」として、点在する町家7棟を改修したもので、フロント機能のある施設で受付を済ませた宿泊客は、点在しているそれぞれの宿に向かう仕組みとなっており、キッチンなど自炊設備の備えもあり、地元で買った食材を宿泊客が調理することもできるそうである。こうした分散型宿泊施設によるまちづくりは各地で増加傾向にあるが、本市においても、先進事例に見られるような計画性をもった取り組みが必要ではないかと考えるが、市長の見解を伺う。
- 4 改正旅館業法並びに、地方創生特区の規制緩和により、本市ではどのような展開が可能であると見込んでいるのかについて伺う。
- 5 また、このような取り組みにおいて、例えば角館地区では、伝建群の保存はもとよ

り、外町の景観づくりも重要であると認識する。市では平成 27 年 6 月に景観計画を策定し良好な景観づくりを進めるとしているが、これまでの取り組み、現状と課題、今後について伺う。

- 6 町並み整備を進めるにあたっては、道路の無電柱化も同時に検討するべきと考える。
日本はヨーロッパなどと比較し、無電柱化の後進国である。ロンドンやパリ、香港では 100%、シンガポール、台北でも約 95%無電柱化が進んでいる中であって、日本では東京や大阪で 6~8%、地方道においてはせいぜい 2%程度しか進んでいないのが現状である。無電柱化は、町の景観が向上することの他、特に災害時において電柱倒壊による事故、家屋の損壊、感電、緊急車両通行の妨げなどを防ぐことができるなど、多くの利点がある。今後、先の取り組みと共に計画的に進めて行くべきではないのか。市長の考えを伺う。
- 7 また、今後新角館庁舎整備に伴い解体される予定の、現角館庁舎及び中町庁舎など、これまでエリアの中心となっていた箇所についての利活用策も具体性をもって準備に取り掛かる時期に来ているのではないかと考える。今後の方策を問う。
- 8 一方で観光客の受け入れ態勢の整備についても充実させる必要があると考える。
国内客はもとより、増加している外国人観光客に対する環境整備も客数増加を図る上では欠かせない。市政報告では、観光庁の多言語解説整備支援事業の採択を受け、多言語解説の専門人材が今後市に派遣されることになったようであるが、この事業について具体的な説明を求める。また、宿泊施設や店舗において、スタッフの外国語対応力を高める施策も積極的に行う必要があると考えるが、市の取り組み状況について伺う。加えて、クレジットカード決済やキャッシュレス決済の仕組みが普及しなければ、外国人観光客の消費に結びつかないことは以前から指摘されているが、市内の現状と、普及に対する市の取り組みについて伺う。
- 9 また、観光客からの苦情に対しても真摯に対応し改善を図っていくことも、新規客はもとよりリピーター客を確保する上で非常に重要である。今年の角館桜まつりは前年比 9 万 9 千人増の 140 万 1 千人の入込となったようであるが、これだけの観光客が訪れているのであれば、良かったとする声の一方で、当然何らかの苦情も出ているはずである。市では観光客からの苦情等については、どの程度把握し、また、どのような対応を行っているのかについて伺う。
- 10 また、以前から多い苦情の一つとしては、桜まつり期間中の駐車場についてである。
観光客からは武家屋敷駐車場において特に雨天時の環境の悪さが指摘されていることは市でも認識しているはずである。観光協会等からは全面舗装の要望も上がっているようだが、一方では駐車場の一部が伝建群地内となっていることにより、実現が難しいとも聞く。市としては今後どのように対応していくのかについて、当該箇所における法的見解も含め伺う。